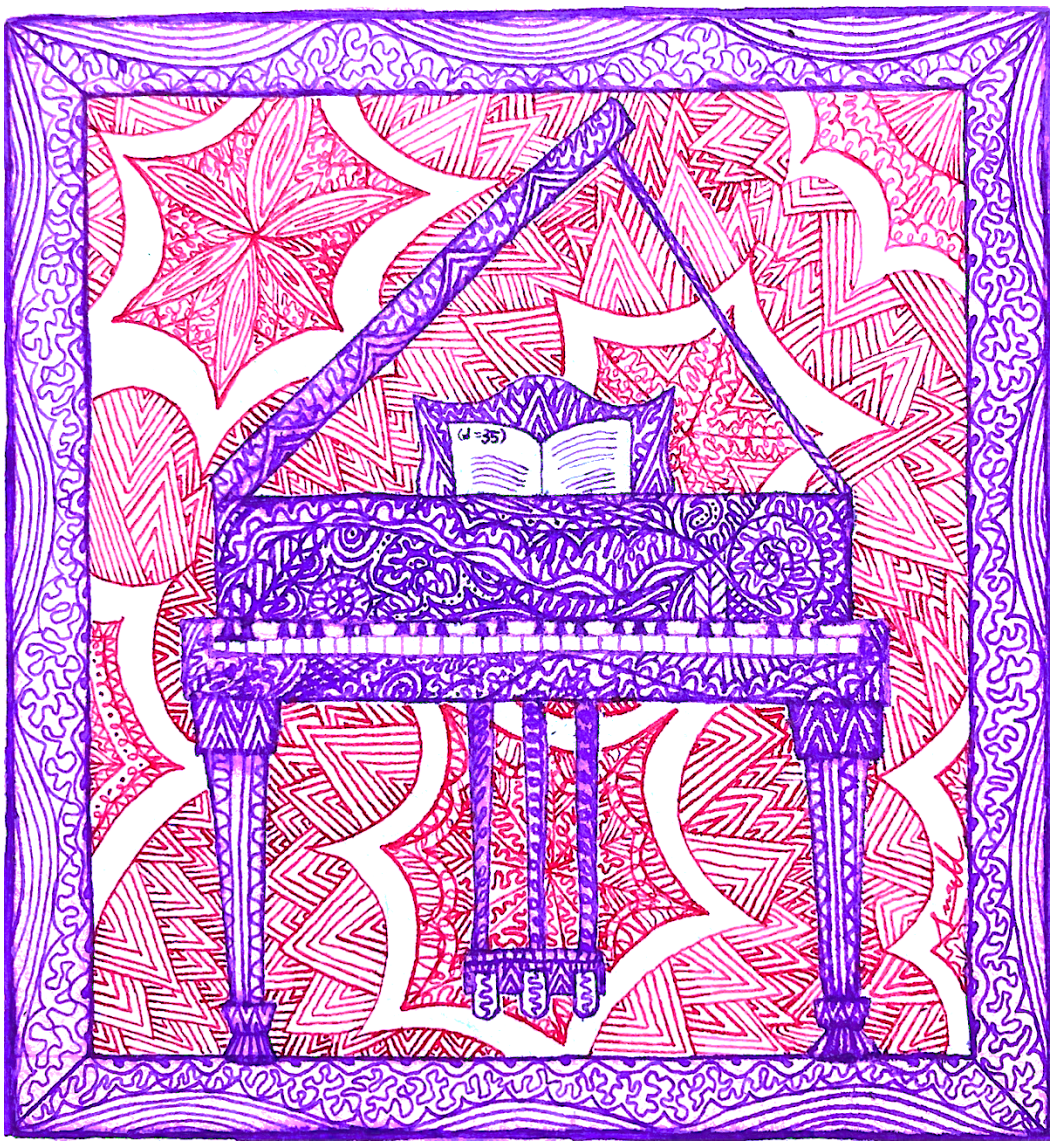
北大ピアノクラブ

35th コンサート



2024 年 11 月 02 日（土）

１３：００開場・１３：３０開演

クラーク会館講堂

ご挨拶

本日はお忙しい中、北大ピアノクラブ 35 周年コンサートにお越しいただき、誠にありがとうございます。

北大ピアノクラブはピアノを通じた部員同士の交流を目的としたサークルで、週 1 回の例会と年数回の定期コンサートを行っております。残りわずかとなりましたが、今年度もコンサートを予定しておりますので、ぜひ足を運んでいただければ幸いです。また、北大ピアノクラブに少しでも興味のある方は、例会など日々の活動にお気軽にお越しください。

さて、今回の HPC35th コンサートですが、北大ピアノクラブ 35 周年の記念として開催しました。OBOG の方に出演いただいたり、部員ですら知らないようなマニアックな曲がたくさんあったりなど、今までとは一風変わった多彩なプログラムとなっております。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください♪

最後になりましたが、本日の開催にあたり、ご支援ご協力をいただきました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

北大ピアノクラブ　部長　清水虎太朗

お客様へ

開演に先立ちまして皆様にお願いがございます。

・会場内でのご飲食、ご喫煙はご遠慮ください。
・携帯電話や時計のアラームなど音の出る機器は、あらかじめ電源をお切りください。
・演奏者の許可のない録音・録画・写真撮影はご遠慮ください。
・演奏中の移動や会場の出入りはご遠慮ください。やむを得ず会場の外に出られる際は、係の者の指示に従ってください。
・会場内では、個人の判断により必要に応じたマスクの着脱をお願い致します。

全てのお客様に快適に演奏をお楽しみいただけますよう、ご協力をお願い致します

Program

〈第 1 部〉

1. イベール「『物語』より　1. 金の亀を使う女　2. 水売り女」
   工学部環境社会工学科 3 年　33 代　浜口怜子（はまぐちれいこ）

2. ベートーヴェン「ピアノソナタ第 14 番 嬰ハ短調 Op.27-2 『月光』」
   医学部医学科 1 年　35 代　清水陽介（しみずようすけ）

3. アルカン「12 ヶ月集 : 12 の特徴的な小品 Op.74 より『11 月-瀕死の者-』」
   理学院 1 年　33 代　笹木元太（ささきげんた）

4. ラフマニノフ「楽興の時 第 3 番 ロ短調 Op.16-3」
   「前奏曲 第 7 番 ハ短調 Op.23-7」
   工学部機械知能工学科 4 年　32 代　坂野遼太郎（ばんのりょうたろう）

〈第 2 部〉

5. すぎやまこういち「ドラゴンクエスト 序曲」
札幌国際大学短期大学部 総合生活キャリア学科卒　29 代　木村真緒（きむらまお）

6. Sakuzyo「Piano Sonata-Ⅲ-」
医学部医学科 2 年　35 代　木納眞子（きのうまこ）

7. ジョン・ケージ「Suite for Toy Piano (1948)」
工学部情報エレクトロニクス学科卒　22 代　田中颯一（たなかそういち）

8. ゲーゼ「エレジー Op.19-1」
スクリャービン「即興曲 Op.12-2」
アルカン「グランドソナタ「4 つの時代」Op.33 より第 4 楽章 50 代『縛られしプロメーテウス』極端に遅く」
薬学部薬科学科 2 年　34 代　清水虎太朗（しみずこたろう）

〈第 3 部〉

9. ショパン「ワルツ第 11 番 変ト長調 Op.70-1」
「練習曲集第 5 番 ホ短調 Op.25-5」
リゲティ「3 つのバガテル」
歯学部 4 年　32 代　青山翔（あおやましょう）

10. ショパン「アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ Op.22」
医学部保健学科卒　30 代　永山聖士（ながやままさし）

11. プロコフィエフ「ピアノソナタ第 8 番 変ロ長調 Op.84 『戦争ソナタ』第 3 楽章」
農学部森林科学科卒　13 代　近藤正樹（こんどうまさき）

〈第 4 部〉

12.　ランゲ「花の歌」
医学部保健学科 2 年　34 代　吉田彩花（よしだあやか）

13.　J.S.バッハ「半音階的幻想曲とフーガニ短調 BWV 903」
農学部 1 年　35 代　宮入汐里（みやいりしおり）

14.　ボルトキエヴィチ「ピアノソナタ第 2 番 嬰ハ短調 Op.60 第 1 楽章」
理学部数学科卒　19 代　猪原雅史（いのはらまさし）

15.　フォーレ「組曲『ドリー』より Ⅱ.ミ・ア・ウー Op.56-2」
ラフマニノフ「連弾のための 6 つの小品より『スラヴァ』Op.11-6」
医学部保健学科 2 年　34 代　吉田彩花（よしだあやか）
工学部機械知能工学科 4 年　32 代　坂野遼太郎（ばんのりょうたろう）

〈第 5 部〉

16.　ドビュッシー「前奏曲集第 1 集より　沈める寺」
工学部環境社会工学科 3 年　33 代　酒向みなみ（さこうみなみ）

17.　シューマン「幻想小曲集 Op.12 より 1.第 2 曲『飛翔』 2.第 6 曲『寓話』」
北星学園大学大学院 社会福祉学研究科卒　13 代　中山健太朗（なかやまけんたろう）

18.　フェインベルク「ピアノソナタ第 10 番 変ロ短調 Op.30」
経済学部経営学科卒　22 代　長内一生（おさないいっせい）

19.　ショパン「エチュード Op.25-11 イ短調『木枯らし』」
「エチュード Op.10-10 変イ長調」
「バラード第 3 番 変イ長調 Op.47」
理学部物理学科卒　26 代　小川巧真（おがわたくま）

Introduction

1.　イベール「『物語』より　1. 金の亀を使う女　2. 水売り女」
工学部環境社会工学科 3 年　33 代　浜口怜子（はまぐちれいこ）

〈曲紹介〉

ジャック・イベールは 20 世紀に活躍したフランスの作曲家です。ピアノよりもオーケストラ曲や室内楽曲で評価されていたようですが、今回演奏する小品集「物語」は彼の代表的ピアノ曲であり、この作品によって彼の名がより広く世に知られるようになったそうです。

「物語」は 10 曲の短い小品で構成されています。当時イベールは中近東や西欧を旅行していたのですが、そこで感じた印象や現地で聞いた昔話を表現しているそうです。

今回はその中から特に好きな 2 曲を選びました。美しさの中にどこか物憂げな表情がある、不思議なイベールの世界観を感じていただけますと幸いです。

〈他己紹介〉

浜口さんはピアノクラブの元部長さんです。現在、ピアノクラブで最も偉い人の一人です。その証拠に誰も彼女に逆らいません。いや、逆らえません。

浜口さんは京都弁を自在に操ることができます。何と一年で二度もイギリスに留学し、ブリティッシュ・京都弁を携えて帰ってきました。もったいぶった皮肉、何と恐ろしい!!

浜口さんは元酒豪です。留学中に世界の酒豪たちの見事な飲振りに恐れをなし、酒豪キャラを引退したそうです。

浜口さんは運転が苦手です。運動も苦手だそうです。でも何故かスキーは驚くほど上手いそうです。

浜口さんは素晴らしい方です。ピアノの腕前、人柄ともに卓越しています。そんな浜口さんの美しく温かみのある演奏をお楽しみください。

2. ベートーヴェン「ピアノソナタ第 14 番 嬰ハ短調 Op.27-2 『月光』」
医学部医学科 1 年　35 代　清水陽介（しみずようすけ）

〈曲紹介〉
いわゆる「月光ソナタ」です。ベートーヴェンのピアノ曲で最も有名な作品といっても過言ではないでしょう。ちなみに「月光」という呼び名は詩人であるルードヴィヒ・レルシュタープにより寄せられたコメント（「ルツェルン湖の月光の波に揺らぐ小舟のよう」）から採られているそうです。
〈自己紹介〉
医学部医学科 1 年の清水陽介です。怠惰な性格。

3. アルカン「12 ヶ月集 : 12 の特徴的な小品 Op.74 より『11 月-瀕死の者-』」
理学院 1 年　33 代　笹木元太（ささきげんた）

〈曲紹介〉
今回私が演奏する 12 ヶ月集はアルカンが 1838 年に出版した 6 つの性格的小品集をベースに 1840 年に 6 曲追加して完成された曲集です。12 番までの通し番号が各月に対応しています。今回は 11 月に実施されるということで 11 番の「11 月」を演奏しようと思います。11 月は「瀕死の者」という副題がついており、私が昨年のサマーコンサートで演奏したアルカンのグランドソナタ 4 楽章「50 代-縛られしプロメーテウス」と似たような曲風となっています。この曲は 3 部形式で、中間部には賛美歌の挿入されています。この曲で描かれる瀕死の人は死を前にして祈りを捧げているものと思われます。賛美歌を挿入するところは敬虔なユダヤ教徒であったアルカンによく見られる作風です。
グランドソナタ 1 楽章、2 楽章と過酷を極めるアルカンの曲を最近はお届けしたので箸休めに今回は短くて静かな曲をセレクトしました。
〈他己紹介〉
彼はかなりの割合で「難しい」というよりキチガイ」な曲を選曲する
ショパンのいわゆる難曲などもやるが、知る人ぞ知るヤバい作曲家のものを弾く
今回も例に漏れず「アルカン」という人の曲を選んでいる
分かる人には分かるいわゆる「キチガイ」的な難しさを誇る曲を世に出している作曲家だ。
よくもまぁやるもんだなと毎回感心している。
そんな彼がどうやってこの曲を弾き切るのか見ものなので、是非聴いていただきたい

4.　ラフマニノフ「楽興の時 第 3 番 ロ短調 Op.16-3」
「前奏曲 第 7 番 ハ短調 Op.23-7」
工学部機械知能工学科 4 年　32 代　坂野遼太郎（ばんのりょうたろう）

〈曲紹介〉
●楽興の時第 3 番
葬送行進曲とも評される、暗く重い曲調が続く小曲である。ほぼ全ての音が和音で構成されており、美しい和声と共に進行するラフマニノフの特徴が現れている。短いフレーズが途切れ途切れ繰り返され、変拍子的なリズム感をもつ曲調からは嗚咽のような悲痛な響きも感じられる。

後半は地を踏みしめるかのように低音のオクターブが響き、それに合わせて主題が繰り返される。この部分こそ恐らく「葬送行進曲」と言われる所以であり、前半の陰鬱とした印象とは異なる奇妙な感情を抱かせる。最後は高音部からの下降の音型が長く続き、地の底の暗闇に達したところで消え入るように曲は終わる

●前奏曲第 7 番
全体を通して早いパッセージが続く、練習曲のような技巧的な曲である。
冒頭から鋭く重い低音が響き、高音部では右手で渦のような目まぐるしいパッセージが流れる。さらにこのパッセージは左右の手で弾き分ける構造をとっており、ピアニストたるラフマニノフらしい技巧的な特徴を持つ。

ラフマニノフの作品の特徴として「半音階的進行」が挙げられる。この曲にも早いパッセージの繰り返しの中で半音ずつ下降していく音があり、その部分を大まかなメロディーとして進行する。

2 曲とも和声の変化が美しい、また独特な技術を要求される曲である。ぜひお楽しみいただきたい。
〈他己紹介〉
坂野(✕さかの◎ばんの)遼太郎さんの紹介をさせていただきます。

岐阜県出身生粋の多治見っ子です。(最近住民票を札幌に移し、寝返りました)筆者と同じ某 R 会で塾講師をしていますが、なかなかブラックなもので...新しいバイトを始めるだとかなんとか言っていましたが、何もせず半年くらい経ってますね。本人曰く、接客やりたい！とのことなので、某 R 会よりホワイトな職場にスカウトしてあげてください。げんきいっぱいが取り柄です。

ばんのさんの口癖
おなかへったー。たべるー。ねるー。うにー。
ばんのさんの癖
財布スマホをなくしがち。
旅行先にいろんなものを寄付しがち(＝わすれものしがち)
車から飛び出して走り出しがち。
崖、登りがち。

今年 3 月にピアノクラブの面々で、彼の多治見実家にお世話になった時
お母さま「りょうたろうにだけは絶対 ETC カード渡さないでね！絶対ね！絶対なくされるから！あなたたちがもっておくか、りょうたろうに渡すくらいならオルゴールに入れてね！絶対渡さないでね！」
何をやらかしたら 23 歳の息子がこんなに心配なのか…お母さまの苦労が絶えませんね。

そんな普段は 5 歳児みたいなばんのさんですが、唯一ピアノを弾いているときだけ、年相応なんなら少し大人びて見えます。それくらいピアノにのめり込んでいるのでしょう。鍵盤の芯をつく力強いタッチ、正確な打鍵、洗練された音のバランスが彼のピアノの魅力です。
皆さんも本日は彼の一級品のピアノをお楽しみください。

5.　すぎやまこういち「ドラゴンクエスト 序曲」
札幌国際大学短期大学部 総合生活キャリア学科卒　29 代　木村真緒（きむらまお）

〈曲紹介〉
ドラゴンクエスト序曲は 1986 年にすぎやまこういちさんが作曲しました。ドラクエの代表曲です。そして、ドラクエシリーズの曲は様々な CM で使用されています。
久々に人前で演奏するので緊張していますが頑張って演奏するので、温かい目で見守ってください。

〈他己紹介〉
ピアノクラブを卒業して早数年、まさか人物紹介をさせてもらえるとは。感激の極みです。
いつも笑顔でみんなを癒してくれる彼女。
残念ながら、しがない牛乳屋の語彙(書き手の職業)ではこの方の魅力を伝えきることは難しいようです。無念。
とにかく元気！いい子！
詳細は皆さんで直接ご覧になっていただきたい。
そんな彼女も 1 年ぶりの演奏とのことで大分緊張のご様子。現役の時を含めても中々のレア度だそうで。
演奏を聞けるあなたはとてもラッキー。ぜひぜひ彼女を目に焼き付けてください！

6. Sakuzyo「Piano Sonata-Ⅲ-」
医学部医学科 2 年　35 代　木納眞子（きのうまこ）

〈曲紹介〉
削除という音ゲー作曲家が作ったピアノの曲です。ポップスの要素が大きい曲ですがところどころで現代音楽の手法も用いられておりジャンルを横断するような楽曲となっています。ピアノソナタは全部で三楽章ありますが、三楽章目が一番華やかでお気に入りなので選びました。
〈自己紹介〉
8 月に入会した木納です。近現代の音楽が好きです。
お金足りないのに最近扶養超えそうで悩んでいます。割りの良い給料手渡しバイト知ってる方いらっしゃいましたら教えていただけると幸いです(山パン以外)

7.　ジョン・ケージ「Suite for Toy Piano (1948)」
工学部情報エレクトロニクス学科卒　22 代　田中颯一（たなかそういち）

〈曲紹介〉

ジョン・ケージの名を聞いて『4 分 33 秒』(1952) を思い浮かべる方も多いことだろう。この作品は、演奏者が楽器を鳴らさずただ 4 分 33 秒間を沈黙をもって過ごす、というものであるが、その中でもコントロールすることができない外界の音、例えば、風の音や聴衆が無意識にたてる物音、を寧ろ積極的に受け容れる、のがこの作品の本質である。ケージは、構造をもって造り上げられた音楽を目指すというよりも、そういった音楽の過程ににによって見捨てられた可能性にスポットライトを当て、純粋に音という現象を楽しむという方向に音楽性を窮めていった。

『トイピアノのための組曲』(1948) は、単なるおもちゃであったトイピアノを楽器として扱った最初の作品としてよく知られる。全五曲からなり、第一曲と第二曲、第三曲と第四曲は連続して演奏される。第一曲は、本質的にはモノフォニックであり親しみやすい旋律である。第二曲に移ると、二声に分かれ、リズミカルな旋律の掛け合いになり、最後に同音連打の旋律が一方に現れる。第三曲は、緩やかなテンポに変わり、意味深な重音のモチーフが現れる。続く第四曲は、メランコリックな二声の掛け合いであるが、最後は二声が同時に歌い上げる。第五曲は、勇ましい単旋律を繰り返す。全体を通して、白鍵のみの 9 音しか使われておらず、同時に 3 音以上が打鍵されることがない、かなりシンプルな構成である。全曲を通し表現方法にはバリエーションが富んでいるが、一方で、和声も拍子も一貫性に乏しく感じられ、まるでそれほど音楽教育を受けていない子どもが作ったかのような印象も受ける。初めて楽器を勉強してまもなく、少し自由に弾けるようになり、音楽を演奏することの楽しさに目覚めた、あの頃を思い出させるようだ。

〈自己紹介〉

ピアノ弾きというのは、基本的に会場にあるピアノを弾くことになるわけですが、他の楽器の演奏者は、自分の楽器というのを持っていて、会場にそれを持ち込んで弾くことが多いじゃないですか。あれに少し憧れがありました。自分の身体の延長として楽器がある、という実感がもっと持てそうな気がしそうじゃないですか。そんなこともあって、なんらかのトイピアノ作品を演奏会で弾く、という構想自体は数年前からあったのですが、この演奏会の案内があるまで、特に具体的な作品には取り組んでいませんでした。初めてのトイピアノ演奏にドキドキです。曲を決め、いざ取り組んでみると、このトイピアノで大丈夫だろうか、別のトイピアノの方が良いのでは、なんていう不安が出てくるようになりました。今までの演奏会でも、会場のピアノを考慮して曲を選んではいたのですが、それ以上の不安があります。自分の楽器が会場でどう響くのか、誰も試していないというのは、結構なリスクです。さあ、どうなるのでしょうか。お楽しみに。

8.　ゲーゼ「エレジー Op.19-1」
　　スクリャービン「即興曲 Op.12-2」
　　アルカン「グランドソナタ「4 つの時代」Op.33 より第 4 楽章 50 代『縛られしプロメーテウス』極端に遅く」
　　薬学部薬科学科 2 年　34 代　清水虎太朗（しみずこたろう）

〈曲紹介〉
エレジー

ゲーゼはデンマークの作曲家・指揮者・音楽教師です。グリーグの「抒情小曲集」の中の「ゲーゼ」という題の小品は作曲の 3 年前に没したゲーゼへの回想のために書かれたそうです。エレジーについてほとんど解説は出てこなかったのですが、個人的にはショパンのピアノ小品にありそうな曲だと思っています。

即興曲 Op.12-2

この曲も解説がほとんど出てこなかったのですが、難解な曲も少なくないスクリャービンの中では比較的分かりやすく良い曲だと思います。相変わらず左手は跳躍します。

グランドソナタ「50 代」

この曲はアルカンが人の一生を表現したソナタです。全 4 楽章あり、それぞれが 20 代、30 代、40 代、50 代と年代をテーマにしています。各楽章の速度指定は年を取るほど遅くなっており、これは若い時ほど時間が早く過ぎ去る様子を表しています。アルカンは 50 代を死と向き合う時期と考え、重苦しい低温が響くこの最終楽章を作りました。初めて聴くとよく分からない曲ですが、アルカンを知って、興味を持っていただけると幸いです。

コンサートの場でリスト以外の曲を弾くのは実に 9.5 年ぶりとなります。これを機に今後は様々な作曲家を取り上げていきたいと思います!!

〈他己紹介〉
公認サークルピアノクラブ部長の清水虎太朗。
見た目は少し怖いですが、面白い人間です。
クラシックへの愛がちょっと強すぎるだけの変人です。
笹木さんの影響をかなり強く受けており、日本酒とアルカンにお熱です。
彼はいつもリストやアルカンの楽譜を大量に持って例会に来ます。
たまに分厚い教科書で嵩増ししています。
〇〇弾いてとお願いすると、「えー私全然弾けんよ」などと言いながらも、その曲で一番おいしい部分を熱く弾いてくれます。
気になる人はリクエストしてみるといいかもしれません。

こ、た、ろー
響きが心地いいですね
こ、た、ろー
何回もつぶやきたくなりますね
こ、た、ろー
いいですね。

そんな清水虎太朗が今回弾くのはゲーゼ、スクリャービン、アルカンです。お楽しみに。

9. ショパン「ワルツ第 11 番 変ト長調 Op.70-1」
「練習曲集第 5 番 ホ短調 Op.25-5」
リゲティ「3 つのバガテル」
歯学部 4 年　32 代　青山翔（あおやましょう）

〈曲紹介〉
・ワルツ第 11 番
曲の構成は 3 部形式で、主部は飛び回るような音楽で変ト長調から変ニ長調へ転調していきます。中間部は変ヘ長調から始まり、その後変ホ短調、変は長調へと転調し、優雅な同じ旋律が 2 度繰り返されます。最後は主部前半の再現で終わります。前半と終盤の飛躍が難しいです。この曲は高 3 の時に、フジコ・ヘミング氏のコンサートに行った際にアンコールで演奏されていて大変感動した曲です。

・練習曲集第 5 番 3 部形式の曲で、第 1 の部分(ホ短調)がリズミックであるのに対して、中間部(ホ長調)はレガートにうたわれている旋律が美しいです。右手三連符のパッセージと左手の叙情的な美しい旋律が組み合わさり、次に右手が 16 部音符のアルペジオ風の音型となります。最後は、第 1 の部分のアレンジで曲が終わります。左手の幅広いアルペジオ+右手の和音をズレることなく演奏するのは大変難しく、中間部も左手の旋律を美しく表現するのが非常に難しいです。この曲は変化に富んだ曲なので変化を意識して演奏します。（ちなみに、不協和音が多すぎて"wrong note"という副題があるものの、ちゃんとした曲になっていてショパンって天才だな～と思います。）

・3 つのバガテル ある意味で大変難解な曲です。楽譜が届けば演奏します。

〈自己紹介〉

Instagram やってます。→@s_blue_hu

現役生も OBOG の方もお気軽にフォローお願いします。

10. ショパン「アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ Op.22」

医学部保健学科卒　30 代　永山聖士（ながやままさし）

〈曲紹介〉

ショパンの 25 才頃の作品で、ポロネーズが先に書かれていたそうです。出版にあたり、もともとコンチェルトを想定して作曲されたもののピアノ独奏のためにアンダンテ・スピアナートが前奏として添えられました。3 番構成のノクターンから転じた説が有力で、前奏の中間部にはマズルカ風の旋律が入ります。

〈自己紹介〉

奏者は 9 月に仙台にて行われたＯＢコンサート参加のため、勤務の合間を縫うように練習に取り組みました。土壇場でシゲルカワイを選びましたが、クラーク会館のヤマハを本番までの照準にします。

11.　プロコフィエフ「ピアノソナタ第８番 変ロ長調 Op.84 『戦争ソナタ』第３楽章」
　　農学部森林科学科卒　13 代　近藤正樹（こんどうまさき）

〈曲紹介〉
プロコフィエフは現在のウクライナのドニプロ近郊で生まれ、その後サンクトペテルブルクで青年期を過ごしています。ロシア革命時にアメリカに渡りますが、その途中で日本に立ち寄り、京都や横浜、日光や箱根など、色々と観光しているのには非常に親近感が湧きますね。その後、ソビエト時代に祖国に戻っています。 この戦争ソナタはその名の通り、1939 年から 1944 年の第二次世界大戦中に作曲されました。この時期に作曲されたソナタの 6、7、8 番に戦争ソナタという名前が付けられています。
今回演奏する 8 番の第 3 楽章は活発な印象を持つ、一見（一聴？）複雑ですが非常にユーモアを感じられる曲です。フィナーレも華やかで、プロコフィエフの持つ、鋭さ、軽妙さを感じていただけたらと思います。
〈自己紹介〉
2006 年に農学部の森林科学科を卒業しました。今も不思議なことに、木材に関わる仕事をしており、地球の歩き方に出ていない地方に出かけたりしています。音楽以外では、阪神、旅、温泉などが好きです。ただ、何よりもピアノを演奏する機会があれば、極力全て参加したいと思っています。今回も皆さんと演奏できるのが有り難い限り。よろしくお願いします！

12.　ランゲ「花の歌」
　　医学部保健学科２年　34 代　吉田彩花（よしだあやか）

〈曲紹介〉
グスタフ・ランゲはドイツのロマン派作曲家・ピアニスト。彼は生涯で 400 以上ものピアノ独奏のためのサロン小品を創りました。

今日はそのうちの一つ、「花の歌」を演奏したいと思います。espressivo(表情豊かに)、rapido zeffiroso(そよ風のように速く)、con anima cantando(歌うように魂をこめて)、quasi arpa(ハープのように）などたくさんの表現指示があります。サロンに一花添えるように表情豊かに弾いて欲しいというランゲの思いの伝わる曲です。またヘ長調に始まり、ニ短調に転調し、またヘ長調に戻ってくるという表情の変化がドラマチックな曲でもあります。おいしい紅茶やお菓子、素敵な花や快晴のなかのサロンで過ごす贅沢で華やかな時間を想像しながら聴いていただければなと思います。

〈他己紹介〉
吉田彩花さんの紹介をさせていただきます。

生粋の道産子で、幼少期より親の仕事の関係で道内での引越しが多かったとか。「道内」での異動となると、札幌から旭川、さらには豊富から中標津への異動なんていうのもあるわけで…それはそれは大変だそうです。ただおかげで北海道の色んな所に土地勘があり、旅行の時には大変助かっています。

旅行といえば…ドライブする時、ハンドルを持つと人が変わることで知られています。彼女の本性(とは思いたくない)が姿を現し、「はぁ？危ないんだけど」「ふざけんなよ×××××(自主規制)」と危険な車、歩行者に対しよくブチギレています。その様子はなかなか恐ろしく、そのタイミングで遅刻やドタキャンの連絡なんてしたらもう何されるかわかったもんじゃありません。みなさん、気をつけましょう。(遅刻・ドタキャンは普通によくないぞ)

そんなキレたら怖い彩花さんですが、今年はピアノクラブの副部長としてあらゆる場面で貢献してくれました。コンサートの手配や運営はもちろん、サークル運営の連携に尽力し、合宿や留学生送別会などのイベントの細かい点で気を利かせてよりよいものにしてくれました。サークル会館の大掃除に関してもその大半を担っていたとか…。実行力の高さや判断の速さなど、見習いたいものです。

今回、度重なるコンサートやイベントの運営で疲れ切っている中でもコンサートに出演してくれました。仕事のストレスを全部ぶつけるとのことです(嘘)

13.　J.S.バッハ「半音階的幻想曲とフーガニ短調 BWV 903」
農学部 1 年　35 代　宮入汐里（みやいりしおり）

〈曲紹介〉
この曲は幻想曲、フーガの 2 曲で構成されています。幻想曲はアルペジオが多くペダルを使ったり伸び縮みできたりとバッハにしては自由な作風です。フーガは幻想曲とは一変し、終始緊張感があり淡々と進みます。2 曲の対比をお楽しみください！
〈自己紹介〉
フレコンでは連弾をして今回が初めてのソロなので頑張ります！私はバッハが好きなのですが最近はロシアもの、特にラフマニノフにはまっています。

14.　ボルトキエヴィチ「ピアノソナタ第 2 番 嬰ハ短調 Op.60 第 1 楽章」

理学部数学科卒　19 代　猪原雅史（いのはらまさし）

〈曲紹介〉

セルゲイ・ボルトキエヴィチは、20 世紀前半のウィーンを中心に活動したピアニスト=作曲家である。この曲は第二次世界大戦中の 1942 年に作曲された。出版社や歴史的な事情によりボルトキエヴィチが没後まで未出版だったため、紛失したものと思われていた。全体的に「郷愁」を思わせるようなロシアン・ロマンチシズムが感じられ、中にはラフマニノフのピアノ協奏曲第 2 番を彷彿とさせる部分もあったりと見どころの多い曲となっている。その名の通り、主題がしっかりと提示されているソナタ形式ではあるが、一般的なソナタとしては珍しい部分も見られるなど、聴いていて新鮮味すら感じる。

今回、同じ教室の兄弟子にあたる人が発表会でこの曲を演奏しているのを聴いて感銘を受けたため、この曲に挑戦することにした。直近のコンクールに持っていくつもりで力を入れて練習しているので、コンサートでもこの曲の良さを伝えられるように頑張りたい。

〈自己紹介〉

北大ピアノクラブ第 19 代の猪原です。ピアノが好きで細々とずっとやってます。現役時代は独学でいろんな曲に挑戦したりしていましたが、卒業してからは仕事などさまざまな言い訳を並べ、ピアノを弾く頻度がどんどん下がっていました。それでも、ありがたいことに年に一度コンサートに出演する機会をもらえているので、そこに向けて新曲を用意したりしています。また、今年からは心を入れ替えてピアノに向き合うキャンペーンをしていて、まずは形からということで、ピアニストの先生に師事したり、今まで敬遠していたコンクールに出たりし始めました。そんな感じで少しでも上手くなればいいなと思いながら頑張ってます笑。本番も緊張しすぎないように頑張りますので、ご清聴よろしくお願いします。

15.　フォーレ「組曲『ドリー』より Ⅱ.ミ・ア・ウー Op.56-2」
　　ラフマニノフ「連弾のための６つの小品より『スラヴァ』Op.11-6」
　　医学部保健学科２年　34 代　吉田彩花（よしだあやか）
　　工学部機械知能工学科４年　32 代　坂野遼太郎（ばんのりょうたろう）

〈曲紹介〉

●ミ・ア・ウー

フォーレが親しくしていたエンマ・バルダック(後のドビュッシー夫人)とその娘エレーヌのために書かれた組曲「ドリー」より、第２曲 ミ・ア・ウー を演奏します。

まず曲名からして意味がわからないのですが、これはある動物の鳴き声…の、フランス語表現(mi-a-ou)となっています。そう、ねこです。ねこはいます。子猫たちが飛んだり跳ねたり遊ぶ様子を、楽しく表現します。ねこです。よろしくお願いします。

シンプルな３部構成で、素朴でも可愛らしい曲調が続きます。以前コンクールで弾いた曲ですが、和声の変化が楽しいなと思いながら弾いていました。お楽しみください。

●スラヴァ

ラフマニノフが作曲した「連弾のための６つの小品」より、第６番 スラヴァを演奏します。

スラヴァはロシア語で「栄光」という意味。
ロシアに古くから伝わる民謡のメロディーをモチーフとした曲です。冬の夜長の少女たちの遊びで、皿を伏せた中に小物を隠し、誰のものかを当てた人を讃えて歌った〈遊び歌〉であったといわれます。(全音楽譜の解説より引用)
ラフマニノフは「連弾のための小品」のフィナーレとして、このモチーフを転調を繰り返しながら何度も繰り返し、オーケストラのような壮大なクライマックスを作り上げました。

様々な音色が鳴り響く様はロシア正教会の鐘を思わせる、とも評されます。もうひとりの奏者がコンクールで弾いた時もそんな情景も思い浮かべながら楽しんでいました。
皆さんもラフマニノフの描くロシアの風景をお楽しみください。

16.　ドビュッシー「前奏曲集第１集より　沈める寺」
工学部環境社会工学科３年　33 代　酒向みなみ（さこうみなみ）

〈曲紹介〉
コンサートでドビュッシーばかり弾いている私に元祖さとはるさんがおすすめしてくださった曲です。 前奏曲集はタイトルがそれぞれの楽譜の最後にちょろっと書いてあります。あまりタイトルにとらわれてほしくなさそうなので、この先を読むのは曲を聴くまでおあずけしておいて後で「へぇ～」となると楽しいと思います。

タイトルに「寺」と入っていますがこれは原題だと≪cathédrale≫、つまり大聖堂です。フランスのブルターニュ地方の古い伝説に神の怒りを買って海に沈んだイスという街の話があります。この曲はイスの大聖堂が海の底から姿を現しまた沈んでいく様子を表現しているらしいです。
この曲が気に入った人はぜひストコフスキーのオーケストラ編曲も聴いてみてください。
〈他己紹介〉
いつもニコニコげんきのこ。
酒向みなみの紹介です。

彼女は非常におっとりとした穏やかな人物に見えますが、その雰囲気に惑わされることなかれ。

今年の夏休みには日本縦断を成し遂げ、さらには学校再開直後にも根室のサンマ祭りに参戦し、長距離移動の疲れなど知らぬかのように焼きたてのサンマにかぶりつく姿を見せるなど、超アクティブ人生プレイヤーなのです。

また彼女は酒豪でもあり、そのアクティブさはお酒の席でも遺憾無く発揮されます。決してお酒を絶やすことなくこれまでの旅先でのエピソードトークを披露するその姿は、まさしく「酒向」きの人物と言えるでしょう。

おい、笑える。

さてそんな彼女が今回演奏するのはドビュッシーの前奏曲集より「沈める寺」。 酒向みなみのもつ様々な側面を表すかのように次々と変化する音の響きを最後までご堪能ください。

17.　シューマン「幻想小曲集 Op.12 より 1.第 2 曲『飛翔』 2.第 6 曲『寓話』」
北星学園大学大学院 社会福祉学研究科卒　13 代　中山健太朗（なかやまけんたろう）

〈曲紹介〉

1837 年から翌年にかけて作曲された幻想小曲集は、シューマン自身の評価も高かった作品と言われています。この頃は、ピアノの恩師でもあるクララの父に、クララとの結婚を拒絶された時期であり、この作品にはクララへの想いが表現されています。

「飛翔」は、冒頭の力強いテーマと軽やかで繊細なテーマが繰り返し現れます。ここでは、絶望と夢見心地を行き来しながら、想像の世界を羽ばたいているかのように感じられます。「寓話」はおとぎ話のことであり、おどけたようなリズムの可愛らしいテーマのあと、中間部にかけて大きく盛り上がります。

〈自己紹介〉

第 13 代。北海道医療大学、北星学園大学に在学し、他大学からピアノクラブに参加していました。現在は十勝の大樹町で、子どもの発達支援の仕事をしています。

クラ館の懐かしのピアノを弾けるなんて、これはコンサートに出るしかないと思い、エントリーしました。ここまで書いて、違うピアノに替わっていたら、どうしよう…と不安になっています。

今回は好きだけれど取っ付きにくいイメージがあり、これまでコンサートで弾いたことがなかったシューマンの作品に挑戦します。

18.　フェインベルク「ピアノソナタ第 10 番 変ロ短調 Op.30」
経済学部経営学科卒　22 代　長内一生（おさないいっせい）

〈曲紹介〉

サムエル･エヴゲニエヴィチ･フェインベルク(1890-1962、ソ連)はピアニストとして、或いは J.S.バッハ作品やチャイコフスキーの「悲愴」編曲者としてご存知の方もいるかもしれませんが、作曲者としてもピアノ作品を多数残しています。中でもピアノソナタは 12 曲も作曲していますが、その難しさ故か自演の公的な録音はされずにいました。(なお私的録音が一部公開済)

彼の作品は時代によりスクリャービンや社会主義リアリズムの影響が見られますが、今回演奏する 10 番(1940 年頃作曲？)はソナタの中で特に異彩を放つ部類であり、不気味な静けさの中で機関銃の如き轟音が響き渡る曲となっています。

〈自己紹介〉

この曲への未練を断ち切る数少ない機会と捉え、相当な危険を顧みず出演してしまいました。ご了承下さい。

19.　ショパン「エチュード Op.25-11 イ短調『木枯らし』」
「エチュード Op.10-10 変イ長調」
「バラード第 3 番 変イ長調 Op.47」
理学部物理学科卒　26 代　小川巧真（おがわたくま）

〈曲紹介〉
Op25-11 木枯らし
これは誰もが知ってるであろうショパンのエチュードの難曲です。 右手の細かいパッセージをしっかりと分離して弾けるように頑張ります。
Op10-10
こちらはあまり知らない人も多いと思いますが、明るい雰囲気の曲で僕は好きです。
バラード 3 番 この曲は、バラードの中でもかなりの人気曲で、ピアノクラブ内でも愛好家がかなり多くほぼ毎回誰かが弾いているみたいな人気らしいです。
愛好家の耳にもよく聴こえるよう頑張ります。
〈他己紹介〉
小川さんは 35 年の歴史があるピアノクラブでも指折りの実力者として知られています。また、その名はピアノクラブ内部だけではなく他大にも知れ渡っています。先日仙台で行われた旧帝コンで出会った他大の方から「昔北大にめっちゃチャラいのにめっちゃピアノ上手い凄い人がいた」と伺いましたが、おそらく小川さんのことでしょう。さらに、アンリースカイという名前で YouTube 上でも演奏活動もしていて、登録者はなんと 4 万 6 千人！私のアルバイト先でピアノを趣味にしている社員さんもその名前を知っていて「アンリースカイって人知ってる？」と私に聞いてきたこともあるほど名が知られています。私が小川さんの投稿動画で一番好きなのはショパンのピアノソナタ 3 番 4 楽章の動画です。キレと力強さとスピードが絶妙なバランスで最高です。ぜひ皆さんも聞いてみてください！
ここまでで小川さんはとにかくピアノが上手だということは十分伝わったと思います。さて、今回はショパンのバラード 3 番を演奏されるということでピアノクラブバラ 3 界隈の 1 人である筆者は非常に楽しみにしています！

～今後のコンサート～

♪．ウィンターコンサート

日時　12/21(土)　開場　16:00　開演　16:30

ザ・ルーテルホール

入場料　前売　600 円　当日　1000 円

※11 月上旬よりチケット販売開始

（2 台ピアノ予定）

♪．北大ピアノクラブ&北大交響楽団合同コンサート

日時　2 月中旬　開場・開演　未定

ラフマニノフピアノ協奏曲第 2 番

その他ピアノとオーケストラによる小品

♪．フェブラリーコンサート

日時　2/22(土)　開場　13:00　開演　13:30（予定）

芸術の森アートホール

（2 台ピアノ予定）

HOKUDAI PIANO CLUB

Mail: hokudaipc2024@gmail.com
Instagram: @hokudai_piano
X(旧 Twitter): @hokudai_piano
Website: https://university.secret.jp/